

津市監第218号
令和元年10月23日

津市長 前 葉 泰 幸 様

津市監査委員 大 西 直 彦
津市監査委員 駒 田 修 一
津市監査委員 安 藤 友 昭
津市監査委員 佐 藤 有 毅

平成30年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について
(提出)

地方自治法(昭和22年法律第67号)第233条第2項の規定に基づき審査に付された下記の平成30年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について、別添のとおり提出します。

記

- 1 平成30年度榊原財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 2 平成30年度河内財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 3 平成30年度波瀬財産区会計歳入歳出決算の審査意見

平成 3 0 年 度

榑 原 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「-」・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・金額、比率において、負数のもの

平成 30 年度榊原財産区会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

審査の対象は、平成 30 年度榊原財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第2 審査の期間

審査の期間は、令和元年 9 月 19 日から同年 10 月 11 日までである。

第3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 2,317 万 2 千円（表 1 参照）、歳出決算額は 2,150 万 5 千円（表 2 参照）である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、次のとおりである。

(1) 歳入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、財産収入 2,289 万 6 千円である。

表 1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	22,913	22,896	98.8	99.9	25,803	97.6	△ 2,907	△ 11.3
繰入金	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰越金	209	210	0.9	100.5	628	2.4	△ 418	△ 66.6
諸収入	62	66	0.3	106.5	9	0.0	57	633.3
計	23,185	23,172	100.0	99.9	26,440	100.0	△ 3,268	△ 12.4

(2) 歳出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、財産費 1,743 万 7 千円、

積立金 149 万 5 千円である。

表 2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	1,480	1,439	6.7	97.2	1,434	5.5	5	0.3
総務費	871	292	1.4	33.5	294	1.1	△ 2	△ 0.7
財産費	18,397	17,437	81.1	94.8	17,413	66.4	24	0.1
積立金	1,495	1,495	7.0	100.0	6,390	24.4	△ 4,895	△ 76.6
諸支出金	856	842	3.9	98.4	699	2.7	143	20.5
予備費	86	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	23,185	21,505	100.0	92.8	26,230	100.0	△ 4,725	△ 18.0

2 財産に関する調書

財産の平成 30 年度中の増減高及び平成 30 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、平成 30 年度中の増減はなく、平成 30 年度末現在高は 1,226 万 4,036 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 30 年度中に 3,376 立方メートル増加し、平成 30 年度末現在高は 12 万 5 千 577 立方メートルである。

出資による権利については、平成 30 年度中の増減はなく、平成 30 年度末現在高は 84 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成 29 年度末現在高	平成 30 年度中増減高	平成 30 年度末現在高	
土 地	公共用財産(その他の施設)	m ²	918	0	918	
	山 林	直 営	m ²	1,860,307	0	1,860,307
		貸 付	m ²	10,402,810	0	10,402,810
	合 計	m ²	12,264,036	0	12,264,036	
立木の推定蓄積量		m ³	122,201	3,376	125,577	
出資による権利		千円	840	0	840	

(2) 物 品

物品は軽貨物自動車で、表 4 のとおり平成 30 年度中に増減はなく、平成 30 年度末現在高は 2 台である。

表4 物品の状況

(単位：台)

区 分	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高
軽貨物自動車	2	0	2

(3) 基金

基金は榊原財産区財政調整基金で、表5のとおり平成30年度中に149万5千円増加し、平成30年度末現在高は3,291万1千円である。

表5 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高
榊原財産区財政調整基金	31,416	1,495	32,911

3 まとめ

財産区の管理、処分等については、地方自治法第296条の5に規定する財産区運営の基本原則等に十分に配慮され、今後とも適正かつ効率的な予算執行に努められたい。

平成30年度

河内財産区会計
歳入歳出決算審査意見書

津市監査委員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「-」・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・金額、比率において、負数のもの

平成 30 年度河内財産区会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

審査の対象は、平成 30 年度河内財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第 2 審査の期間

審査の期間は、令和元年 9 月 19 日から同年 10 月 11 日までである。

第 3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第 4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は 30 万円（表 1 参照）、歳出決算額は 22 万 1 千円（表 2 参照）である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳 入

歳入の内訳は表 1 のとおりで、決算額の主なものは、繰入金 20 万 4 千円、繰越金 9 万 6 千円である。

表 1 歳入内訳表 (単位：千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰入金	204	204	68.0	100.0	200	62.1	4	2.0
繰越金	130	96	32.0	73.8	121	37.6	△ 25	△ 20.7
諸収入	5	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	340	300	100.0	88.2	322	100.0	△ 22	△ 6.8

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、議会費 20 万 2 千円、財産費 1 万 7 千円である。

表 2 歳出内訳表 (単位：千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	208	202	91.4	97.1	206	91.2	△ 4	△ 1.9
総 務 費	45	1	0.5	2.2	1	0.4	0	0.0
財 産 費	76	17	7.7	22.4	18	8.0	△ 1	△ 5.6
基金積立金	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
予 備 費	10	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	340	221	100.0	65.0	226	100.0	△ 5	△ 2.2

2. 財産に関する調書

財産の平成 30 年度中の増減高及び平成 30 年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地と建物の面積に増減はなく、平成 30 年度末現在高は、土地が 13 万 278 平方メートル、建物が木造 1 棟 63 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成 30 年度中に 358 立方メートル増加し、平成 30 年度末現在高は 2 万 3,091 立方メートルである。

表 3 公有財産の状況

区 分		単 位	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高
土地	山 林	m ²	130,278	0	130,278
建物	河 内 公 民 館	m ²	63	0	63
立木の推定蓄積量		m ³	22,733	358	23,091

(2) 基 金

基金は河内財産区財政調整基金で、表 4 のとおり平成 30 年度中に 20 万 4 千円減少し、平成 30 年度末現在高は 424 万 7 千円である。

表 4 基金の状況 (単位：千円)

区 分	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高
河内財産区財政調整基金	4,450	△ 204	4,247

3 まとめ

平成 30 年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の 68.0 パーセントを占めており、今後においても、歳入全体に占める繰入金の比率は高くなるものと考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。

平成 3 0 年 度

波 瀬 財 産 区 会 計
歳 入 歳 出 決 算 審 査 意 見 書

津 市 監 査 委 員

凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
 - 「-」・・・比率において、±1,000%以上のもの
 - 「△」・・・金額、比率において、負数のもの

平成30年度波瀬財産区会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

審査の対象は、平成30年度波瀬財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

第2 審査の期間

審査の期間は、令和元年9月19日から同年10月11日までである。

第3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

第4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は77万3千円(表1参照)、歳出決算額は53万6千円(表2参照)である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

(1) 歳入

歳入の内訳は表1のとおりで、決算額の主なものは、繰入金49万9千円、財産収入13万8千円、諸収入11万8千円である。

表1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	139	138	17.9	99.3	260	50.7	△122	△46.9
繰入金	499	499	64.6	100.0	0	0.0	499	0.0
繰越金	18	18	2.3	100.0	125	24.4	△107	△85.6
諸収入	117	118	15.3	100.9	128	25.0	△10	△7.8
計	773	773	100.0	100.0	513	100.0	260	50.7

(2) 歳出

歳出の内訳は表2のとおりで、決算額は、議会費47万1千円、総務費6万5千円である。

表2 歳出内訳表 (単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	平成30年度				平成29年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	535	471	87.9	88.0	471	95.2	0	0.0
総務費	72	65	12.1	90.3	24	4.8	41	170.8
予備費	166	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	773	536	100.0	69.3	495	100.0	41	8.3

2 財産に関する調書

財産の平成30年度中の増減高及び平成30年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表3のとおりで、土地の合計面積に増減はなく、平成30年度末現在高は100万9,635平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、平成30年度中に1,932立方メートル増加し、平成30年度末現在高は12万6,359立方メートルである。

出資による権利については、増減はなく、平成30年度末現在高は58万6千円である。

表3 公有財産の状況

区分		単位	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高	
土地	宅地	m ²	1,208	0	1,208	
	雑種地・原野	m ²	887	0	887	
	山林	直営	m ²	1,006,806	0	1,006,806
		貸付	m ²	733	0	733
	合計	m ²	1,009,635	0	1,009,635	
立木の推定蓄積量		m ³	124,427	1,932	126,359	
出資による権利		千円	586	0	586	

(2) 基金

基金は波瀬財産区財政調整基金で、表4のとおりで、平成30年度中に48万7千円減少し、平成30年度末現在高は1,314万6千円である。

表 4 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成29年度末現在高	平成30年度中増減高	平成30年度末現在高
波瀬財産区財政調整基金	13,633	△ 487	13,146

3. まとめ

平成30年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の64.6パーセントを占めており、今後においても、同基金からの繰入金を必要とする状況が考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。